

令和7年度 病虫害発生予察情報

注意報 第1号

令和7年7月10日

発表：福島県病虫害防除所

今後、果樹カメムシ類の発生量が多くなると見込まれます。
園地への飛来や果実被害に注意して、防除を徹底しましょう！

- 1 対象作物：果樹類
- 2 病虫害：果樹カメムシ類
- 3 対象地域：全域
- 4 発生量：やや多い～多い

5 予報の根拠

- (1) フェロモントラップ調査における4月5半旬～6月6半旬の果樹カメムシ類の越冬世代成虫の誘殺数は、調査地点9地点中、5地点で平年の2倍以上となっています(表1の下線参照、図1、図2)。また、6月に入っても増加している地点があります(別紙)。
- (2) 6月中旬の巡回調査において、リンゴ、ナシ、モモの果実被害や果樹カメムシ類の卵、幼虫が確認されています(図3)。
- (3) 天候予報(令和7年7月3日付け仙台管区气象台発表)によると、向こう1か月は平年に比べて気温が高くなる見込みであり、今後も、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想されます。
- (4) 以上より、越冬世代成虫の発生量が多いことから、今後、第1世代成虫の果樹園への飛来量が多くなると見込まれます。

表1 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺数(4月5半旬～6月6半旬)

	2025年(頭)	平年(頭)	平年比(倍)
福島市大笹生	84	32.7	<u>2.6</u>
福島市飯坂町	134	6.8	<u>19.7</u>
国見町	308	39.8	<u>7.7</u>
鏡石町	59	46.3	1.3
郡山市	19	12.0	1.6
会津坂下町	154	19.5	<u>7.9</u>
相馬市1	283	54.3	<u>5.2</u>
相馬市2	1255	-	-
いわき市	1	2.8	0.4

注1) 福島市飯坂町(過去6年)、郡山市(過去9年)、相馬市1(過去4年)、いわき市(過去5年)は例年

注2) 相馬市1は5月5半旬以降中止
相馬市2はR6から調査開始のため平年値なし

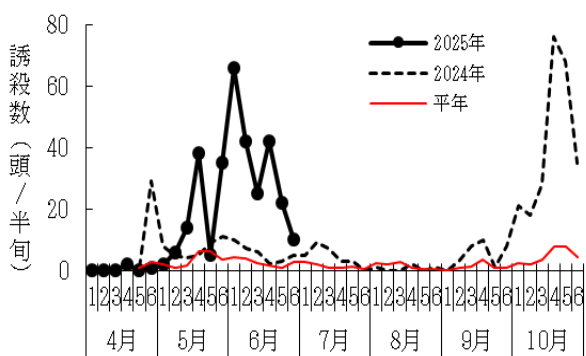


図1 果樹カメムシ類の誘殺状況(国見町)

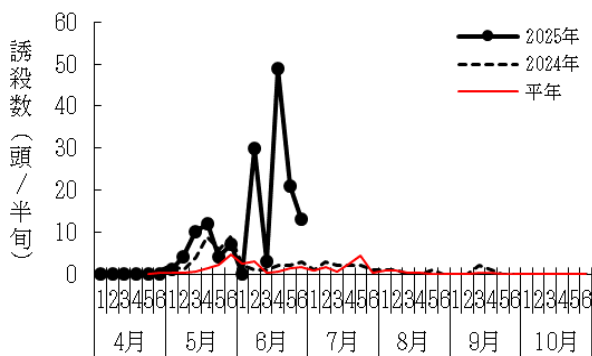


図2 果樹カメムシ類の誘殺状況(会津坂下町)



図3 チャバネアオカメムシの幼虫と卵塊

6 防除対策

- (1) 園内をこまめに見回り、成虫の飛来状況をよく確認しましょう。また、当防除所のフェロモントラップデータ等の情報を注視してください。
 - ア 園内への飛来や加害は、夜温や湿度の高い日に多くなる傾向があります。
 - イ 地域や園地により飛来数の差が大きく、特に山間部や山林に隣接する園地では飛来数が多くなる傾向があります。
 - ウ 第1世代成虫は7月下旬頃から発生し、8月上旬頃にピークとなりますが、園地への飛来時期については予測が困難であるため注意が必要です。
- (2) 農薬散布は、以下の点に注意して実施してください。
 - ア 園地への多数の飛来が確認される場合は、表2～表4や地域の防除情報等を参考に薬剤の使用濃度、収穫前日数などの農薬使用基準を遵守し、薬剤を散布してください。なお、合成ピレスロイド剤は、天敵に影響がありハダニ類やカイガラムシ類などの多発を引き起こすことがあるので、注意しながら使用しましょう。
 - イ 果樹カメムシ類は移動性が高いので、防除効果を高めるため、できるだけ地域で一斉防除に努めましょう。
- (3) 果樹カメムシ類は果樹類の葉などに断続的に産卵するので、葉裏など定期的に観察し、産卵された葉はふ化、分散する前に摘み取り適切に処分しましょう（図3）。

表2 果樹カメムシ類防除剤の農薬使用基準（リンゴ）

薬剤名	有効成分	RAC コード	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数
イカズチWDG	シベルメトリン	3 A	1,500倍	散布	収穫前日まで	2回以内
スカウトフロアブル	トラロメトリン		<u>1,500倍</u>	散布	収穫前日まで	5回以内
ロディー水和剤	フェンプロパトリン		<u>1,000倍</u>	散布	収穫前日まで	2回以内
アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	4 A	<u>2,000倍</u>	散布	収穫7日前まで	2回以内
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内
バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内

注1) 登録内容は令和7年6月30日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものです。

注2) ネオニコチノイド剤（RACコード4 A）は吸汁阻害効果、残効性は優れますが、殺虫効果、耐雨性は薬剤で異なります。また、合成ピレスロイド剤（RACコード3 A）は殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性が優れています。

表3 果樹カメムシ類防除剤の農薬使用基準（モモ）

薬剤名	有効成分	RAC コード	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数
アグロスリン水和剤	シベルメトリン	3 A	<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	5回以内
アディオン乳剤	ベルメトリン		2,000倍	散布	収穫7日前まで	6回以内
イカズチWDG	シベルメトリン		1,500倍	散布	収穫前日まで	5回以内
アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	4 A	2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド		<u>1万倍</u>	散布	収穫3日前まで (ただし、露地栽培については発 芽期から開花期 を除く)	2回以内
アドマイヤー水和剤			1,000倍			
アルバリン顆粒水溶剤	ジテフラン		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		2,000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内

注1) 登録内容は令和7年6月30日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものです。

注2) ネオニコチノイド剤（RACコード4 A）は吸汁阻害効果、残効性は優れますが、殺虫効果、耐雨性は薬剤で異なります。また、合成ピレスロイド剤（RACコード3 A）は殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性が優れています。

表4 果樹カメムシ類防除剤の農薬使用基準（ナシ）

薬剤名	有効成分	RAC コード	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数
アディオン乳剤	ベルメトリン	3 A	2,000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
イカズチWDG	シベルメトリン		1,500倍	散布	収穫前日まで	3回以内
スカウトフロアブル	トラロメトリン		1,500倍	散布	収穫前日まで	5回以内
ロディー水和剤	フェンプロバトリン		1,000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	4 A	2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
アルバリン顆粒水溶剤	ジテフラン		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内

注1) 登録内容は令和7年6月30日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものです。

注2) ネオニコチノイド剤（RACコード4 A）は吸汁阻害効果、残効性は優れますが、殺虫効果、耐雨性は薬剤で異なります。また、合成ピレスロイド剤（RACコード3 A）は殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性が優れています。

- ◆福島県では6月10日から9月10日まで令和7年度農薬危害防止運動を実施中です。
- ◆農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。

●本情報の内容に関する質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予防課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727